

女性や若い力 歓迎!



令和 6 年度



みえ防災塾

受講生募集



基礎コース ■ みえ防災コーディネーター育成講座

応用コース ■ さきもり応用コース





みえの防災を担う人達へ。

みえ防災・減災センター長からのメッセージ



三重県・三重大学
みえ防災・減災センター長
三重大学 理事
(社会連携担当)
・副学長

酒井 俊典

「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」は、全国に先駆け平成 26 年に都道府県(三重県)と国立大学法人(三重大学)が共同で設立し、行政職員と大学教員が一体となって地域防災力向上に向けた取組を行っているセンターです。当センターでは、人材育成・活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査・研究の 4 つの分野を柱に事業を進めており、その中で「みえ防災塾」は、人材育成・活用の面から、地震や風水害など自然災害に対し、地域で活躍出来る防災人材の育成のため、自然科学、人文社会科学など多方面から防災・減災を学べるカリキュラムとなっています。「みえ防災塾」には 2 つのコースがあり、基礎コースでは、復旧・復興活動への支援を担う地域防災・減災活動に貢献できる人材の育成を、応用コースでは、先進的・実践的な防災・減災のための計画立案とそのマネジメントを行う能力を持つ人材の育成を目指しています。修了生の多くは、「みえ防災人材バンク」に登録するとともに、「みえ防災コーディネータ連絡会」や「三重さきもり倶楽部」を通じて三重県地域の防災・減災活動に貢献していただいております。また、当塾のカリキュラムは、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な「職業実践力育成プログラム」(BP プログラム)として文部科学大臣の認定も受けています。

毎年のように各地で大きな自然災害が発生し、三重県でも南海トラフ巨大地震の発生や風水害の被害などが危惧される中、地域での防災・減災活動に対応出来る能力を持った人材の育成は重要です。「みえ防災塾」で学び、三重県地域の防災・減災活動に貢献できる防災人材として活躍していただくことを期待しています。

塾長からのメッセージ



三重大学工学研究科 教授
地域圏防災・減災研究センター
教育部門長
みえ防災塾 塾長

三田 紀行

東日本大震災の教訓を踏まえ、南海トラフ沿いで想定すべき最大クラス地震・津波に対する被害想定が示されてから 10 年が経とうとしています。そのとき既に三重県が大きな被害を被るであろう東南海地震は、30 年以内の地震発生確率が 70%と推定され、刻々と時間が経過しています。それ以外にも三重県内では大雨による浸水、土砂災害が頻発しています。このような災害が差し迫った身近な問題であることは皆さんもお気づきだと思います。

ではどうすればよいのか？ そのきっかけになるのがみえ防災塾です。災害から身を守る術を知ること、防災・減災対策を行うことはもちろんですが、そのためには自然災害とはどのようなものなのかを正しく知ることが根本的な解決に繋がります。

みえ防災塾は多くの修了生を輩出しており、県内各地で活躍しています。皆さんが、三重県における防災・減災活動の普及と推進に取り組む一員となっていただけることを期待しています。

みえ防災塾とは

このような人を育てます

みえ防災塾の「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」では「みえ防災コーディネーター」として防災・減災活動に関して、自然科学分野や人文社会科学分野の知識を持ち、平常時は地域や企業などで自主的に防災啓発活動などを行い、災害時は公的な組織と協働して、復旧・復興活動への支援を担う地域防災・減災活動に貢献できる人材を育成します。

「応用コース さきもり応用コース」では「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」の人材育成の目標に加えて、「三重のさきもり」として、先進的・実践的な防災・減災のための計画立案とそのマネジメントを行う能力を持つ地域防災・減災リーダーを養います。特に、演習や実習における少人数教育、対話を重視した教育を通して、現場で活躍するための応用力や実践力を養います。

両コースの修了生は、「みえ防災人材バンク」に登録することで、地域の防災・減災に関する人的ネットワークを築くことができます。

このような人を求めます

- ①防災・減災活動における問題解決の実践に情熱を持ち、三重県地域に貢献しようという気概を持った人
- ②自然、社会、文化、人間に対して幅広い関心を持ち、それらの基礎学力を持った人
- ③防災・減災活動を理解するために必要な自然科学、人文社会科学に興味を持ち、それらを応用する能力と自主的に学ぶ意欲を持った人
- ④防災・減災活動に対する旺盛な好奇心を持ち、真摯に問題を探求し続ける姿勢を持った人

地域で活躍していただきます

防災人材の活用促進<みえ防災人材バンク>

みえ防災・減災センターでは、みえ防災コーディネーターやみえ防災塾修了生に登録いただく「みえ防災人材バンク」を設け、防災人材の情報を集約し、市町・企業・地域等からの要請に応じて適切な人材を紹介することで、防災人材の活用を促進しています。



講義・演習の風景（ファシリテーション演習）



修了生の活動例 防災訓練での啓発活動

修了生による連携した防災活動

修了生が互いに情報交換を行うことにより、知識・能力のさらなる向上を図るとともに、連携・協力して三重県地域の防災力を高めることを目的に、学校教育現場への出前授業や地域での防災講座への講師派遣・応援、勉強会、情報共有など様々な活動に取り組んでいます。



ジャパンレジリエンス・アワード

2015

2015年ジャパン・レジリエンス・アワード2015にて、三重大学が三重県、市町、企業、県民と協働して進めてきた「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」による防災人材育成・実践プロジェクトを応募したところ、全国約200件の応募の中から大変に高い評価を受けて「金賞（教育機関部門）」を受賞することができました。

みえ防災塾 2つのコース

■基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座

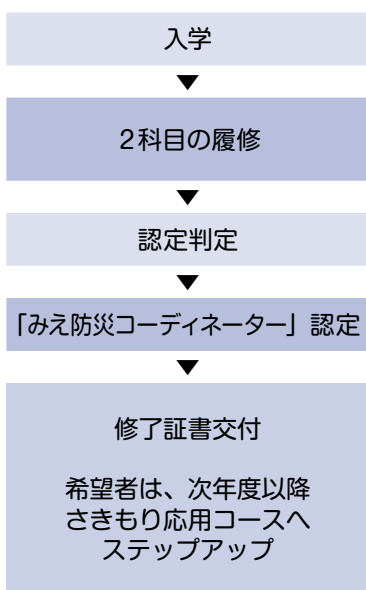
「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」を修了すると「みえ防災コーディネーター」として認定されます。カリキュラムは、2つの科目（みえ防災コーディネーター育成講座の24講座）で構成され、定められた修了要件に従って履修します。

開講日（予定）	令和6年度 日曜日 10:30～16:30 【全10回】
---------	------------------------------

※希望者は他の科目をスキルアップ研修として受講可能：要申請

■基礎コース 出願と入学までのスケジュール

■障害等のある入塾志願者との事前相談	令和6年3月22日（金）まで
■申込期間	令和6年3月27日（水）～4月10日（水）
■受講決定	令和6年4月下旬
■受講手続き	令和6年6月2日（日）入学受付時に提出



■受講期間	1年
■定員	50名（自主防災組織等の推薦による申込者を含む） 定員に達した場合は、申込期間であっても締切ります。
■検定料	なし
■学費	受講料無料（別途資料代・保険代として3000円の自己負担があります）
■認定	みえ防災コーディネーター認定は対象の24講座のうち18講座以上を受講すること。 （みえ防災コーディネーター認定者は、みえ防災人材バンクに登録していただきます）
■修了証書	みえ防災コーディネーターに認定された方には修了証書を交付します。
■受講対象	地域や企業等においての防災活動に積極的に参画する意欲のある方で、三重県在住・在勤・在学で全開催日（18講座以上）受講が可能な方 <ul style="list-style-type: none"> ●みえ防災コーディネーターとしてすでに認定されている方は受講できません。 ●自主防災組織等において、地域の防災活動の中心となって活動いただける方に多数受講いただけるよう、定員を超える応募があった場合は、10名を上限として、※「みえ防災コーディネーター育成講座受講推薦状」の提出により、所属する自主防災組織等からの推薦を得ていることが確認できた方を優先して、先着順に受講者に決定させていただきます。 <p>※「みえ防災コーディネーター育成講座受講推薦状」については、みえ防災・減災センターホームページからダウンロードしてください。</p>

■受講申込 下記WEBフォームまたは右記2次元コードからお申し込みください。

<https://forms.gle/sAMM6XP1tqTZ7Ezb7>



みえ防災塾 各コース共通

日程（予定）	入学式	令和6年 6月 2日（日）
	みえ防災コーディネーター認定式	令和6年 10月 27日（日）
	修了式	令和7年 3月 15日（土）

入学の対象とする人物像	<ul style="list-style-type: none"> ●三重県民の方（自主防災組織、自治会のリーダーなど） ●県内の企業に勤務する人（災害対策や事業継続計画立案担当者など） ●県内の公務員（災害対策や防災の施策立案担当者、教員など） ●津市民防災大学、四日市市防災大学、伊勢市防災大学などの修了者
-------------	--

- ◆「みえ防災コーディネーター」として認定された方は「みえ防災人材バンク」に登録することを必須とし、県内関係市町等へ登録者の名簿の提供を承諾していただきます。
- ◆令和6年度の授業は対面にて実施予定ですが、感染症の拡大状況等によりオンラインに変更になった場合は、主にWeb会議ツール「Zoom」を使用しますので、インターネットに接続できる環境が必要となります。また、インターネット接続に係る通信料は自己負担となります。
- ◆基礎コースみえ防災コーディネーター育成講座受講者については、（特非）日本防災士機構の定める要件を満たした場合は防災士資格取得試験の受験資格が得られます。ただし、感染症の拡大状況等により授業が対面からオンラインに切り替わった場合など、要件を満たさなくなった場合には、受験資格が得られないことがあります。
※なお、その場合、防災士資格取得を希望される方は、基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座以外の防災士養成研修講座で受験資格を得る必要があります。



■応用コース さきもり応用コース

「応用コース さきもり応用コース」を修了すると「三重のさきもり」として認定されます。

カリキュラムは5つの科目とさきもり集中セミナーから構成され、定められた修了要件に従って履修します。

なお、5科目中2科目は「基礎コースみえ防災コーディネーター育成講座」で構成されています。

開講日（予定）	令和6年度 土曜日 13:00～18:00、日曜日 10:30～16:30【全24回】 *さきもり特別研究（ゼミ）は 10:00～12:00
---------	--

■応用コース 出願と入学までの スケジュール

■障害等のある入塾志願者との事前相談	令和6年3月22日（金）まで
■出願資格審査申請期間	令和6年3月22日（金）～3月27日（水）
■出願資格審査結果通知	令和6年4月1日（月）以降
■出願期間	*令和6年3月27日（水）～4月10日（水）
■入塾選考	令和6年4月20日（土）
■合格者の発表	令和6年4月下旬
■入塾手続き	令和6年5月7日（火）～5月15日（水）

*資格審査が必要なものは 令和6年4月3日（水）～4月10日（水）に出願

入学	<ul style="list-style-type: none"> ■履修期間 原則1年（最大2年まで延長可能） ■定員 10名 ■検定料 9,800円 ■選考方法 小論文、面接 ■学費 75,200円（入学料 28,200円、授業料 47,000円）【予定】 ■認定 みえ防災コーディネーター認定は対象の24講座のうち18講座以上を受講すること。（みえ防災コーディネーター認定者は、みえ防災人材バンクに登録していただきます）
▼	
5科目の履修と さきもり集中セミナー の受講 (さきもり特別研究による研究 成果、報告書作成を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■修了 修了証書は、次の条件を満たした方に対して交付します。 ①5科目を受講して、各科目の70%以上に出席すること。 ②各履修科目について、試験で評価点6以上を取得すること。 ③さきもり集中セミナー、研究成果公開シンポジウムを受講すること。
▼	
認定判定	<ul style="list-style-type: none"> ■修了証書 さきもり応用コースを修了すると、修了証書を交付し、「三重のさきもり」として認定します。
▼	
「みえ防災コーディネーター」認定	<ul style="list-style-type: none"> ■履修証明書 さきもり応用コースを修了すると、学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。
▼	
研究成果報告書の 提出・発表	<ul style="list-style-type: none"> ■出願資格 (1) 一般選考 ①学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者 ②個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められ令和6年3月31日までに22歳に達する者 (2) 進学選考 ①三重大学「美（うま）し国おこし・三重さきもり塾」入門コースを修了した者 ②「みえ防災塾」みえ防災コーディネーターコース、みえ防災聴講コース、さきもり基礎コースを修了した者
▼	
修了判定	
▼	
修了 修了証書交付 履修証明書交付 「三重のさきもり」認定	<ul style="list-style-type: none"> ■募集要項・ 出願書類 三重県・三重大学みえ防災・減災センター ホームページからダウンロードしてください。 https://www.midimic.jp/



必須科目	科目名	授業の目的・概要	開催予定日
応用コース さきもり応用コース	基礎コース 防災実践 基礎特論	防災・減災活動の基礎的事項（三重県の防災・減災対策、みえの防災文化づくり、自主防災組織等の先進事例、災害をもたらす自然現象（地震・津波・風水害）、ハザードのメカニズム津波、気象学、災害時のこころのケア、防災・災害復興における女性の視点、災害時要配慮者対策）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。	6月2日(日)
			6月16日(日)
			6月30日(日)
	基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座 防災実践 基礎演習	防災・減災活動の基礎的事項（ボランティア、普通救命講習、災害報道・マスコミ、被災者支援・図上訓練、防災情報の活用、避難所の環境と健康、災害医療と応急対応、市町行政の取り組み、避難所運営ゲーム（HUG）、災害史、初動対応・図上訓練、災害時の食事、Myまっプラン、タウンウォッチング・避難対応、ファシリテーション能力の向上、防災士に期待される活動）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げたテーマに関する理解を深める。	7月21日(日)
			7月28日(日)
			9月8日(日)
			8月18日(日)
			8月25日(日)
			8月18日(日)
			9月8日(日)
			9月29日(日)
	10月27日(日)		
	防災実践 応用特論	地域における自然災害の特徴（ハザードのメカニズム）を理解し、防災・減災のための各種計画（災害医療体制、災害復興、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（災害時要配慮者）について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説する。	7月6日(土)
			8月31日(土)
			11月23日(土)
			12月7日(土)
			12月21日(土)
	防災実践 応用演習	防災・減災のための各種計画（風水害対策、地震対策、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を修得する。	7月6日(土)
			8月31日(土)
			8月3日(土)
10月19日(土)			
11月9日(土)			
11月23日(土)			
さきもり 集中セミナー	防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例について集中して解説する。	6月22日(土)	
		10月5日(土)	
さきもり 特別研究	防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。	6月8日(土)	
		6月22日(土)	
		7月6日(土)	
		8月3日(土)	
		8月31日(土)	
		10月5日(土)	
		11月9日(土)	
		11月23日(土)	
		12月7日(土)	
		12月21日(土)	
1月11日(土)			
1月25日(土)			
2月1日(土)			

		学 習 内 容		講 師 陣 (予 定)
第1回	講座1	特論1	三重県の防災・減災対策	三重県職員
	講座2	特論2	みえの防災文化づくり	三重大学大学院工学研究科 川口淳
	講座3	特論3	自主防災組織等の先進事例	津市南が丘地区自主防災協議会 中村保親
第2回	講座4	特論4	災害をもたらす自然現象(地震・津波・風水害)	三重大学大学院生物資源学研究所 葛葉泰久
	講座5	特論5	ハザードのメカニズム 津波	名古屋大学 水谷法美
	講座6	特論6	気象学、楽しく学べば、怖くない!	三重大学大学院生物資源学研究所 立花義裕
第3回	講座7	特論7	災害時のこころのケア	伊勢赤十字病院・日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 中井茉莉
	講座8	特論8	防災・災害復興における女性の視点	特定非営利活動法人イコールネット仙台 宗片恵美子
	講座9	特論9	災害時要配慮者対策	三重大学大学院医学系研究科 磯和勅子
第1回	講座10	演習1	ボランティア	特定非営利活動法人みえ防災市民会議 山本康史
	講座11	演習2	普通救命講習	津市消防本部北消防署職員
		演習3		
第2回	講座12	演習4	災害報道・マスコミ	メディア関係者
	講座13	演習5	被災者支援・図上訓練	三重大学大学院地域イノベーション学研究所 水木千春
		演習6		
第3回	講座14	演習7	防災情報の活用	気象庁 津地方気象台職員
	講座15	演習8	避難所の環境と健康	国際医療福祉大学大学院保健医療学災害医療分野 石井美恵子
	講座16	演習9	災害医療と応急対応	三重大学医学部附属病院 岸和田昌之
第4回	講座17	演習10	市町行政の取り組み	市町職員
	講座18	演習11	避難所運営ゲーム(HUG)	三重大学大学院地域イノベーション学研究所 水木千春
		演習12		
第5回	講座19	演習13	災害史	三重大学人文学部 塚本明
	講座20	演習14	初動対応・図上訓練	三重県職員 岸江竜彦 市町職員 藤原宏之
		演習15		
第6回	講座21	演習16	災害時の食事	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科 印南 京子
	講座22	演習17	Myまっぴらん、タウンウォッチング・避難対応	三重県職員
		演習18		
第7回	講座23	演習19	ファシリテーション能力の向上	株式会社 Will Staff 長谷川聡子
	講座24	演習20	防災士に期待される活動	防災士
	認定式・防災士資格所得試験			
第1回	特論1	三重県の地震と津波の記録		三重大学教育学部 栗原行人
	特論2	ハザードのメカニズム 地震		名古屋大学 田所敬一
	特論3	津波から命を守るために		常葉大学社会環境学部社会環境学科 阿部郁男
第2回	特論4	災害医療体制の計画		三重大学大学院医学系研究科
第3回	特論5	現場で使える実践手法(要配慮者)		三重大学大学院医学系研究科 磯和勅子
第4回	特論6-8	災害復興の計画・課題		三重大学大学院工学研究科 三宅諭、三田紀行、川口淳
第5回	特論9	防災まちづくりの計画		三重大学大学院工学研究科 三宅諭、三田紀行、川口淳
第1回	演習1	風水害対策の計画	三重大学教育学部 宮岡邦任	
	演習2		三重大学大学院生物資源学研究所 葛葉泰久	
	演習3		三重大学大学院生物資源学研究所 沼本晋也	
第2回	演習4-6	地震対策の計画(建築物の災害対策)	三重大学大学院工学研究科 佐藤光亮、三田紀行	
第3回	演習7-10		現場で使える実践手法(タウンウォッチング・災害図上訓練)	三重大学大学院地域イノベーション学研究所 水木千春 三重大学大学院工学研究科 川口淳
	演習11	防災関連制度の変遷	旭合同法律事務所 澤健二	
第4回	演習12	東海地方の復興対策の展望	国土交通省中部地方整備局職員	
	演習13-14		災害医療体制の計画	三重大学大学院医学系研究科
第6回	演習15-16	現場で使える実践手法(要配慮者・グループディスカッション)	三重大学大学院医学系研究科 磯和勅子、平松万由子、北川亜希子	
第7回	演習17-18	防災まちづくりの計画(ワークショップ)	三重大学大学院工学研究科 三宅諭、三田紀行、川口淳	
第1回	演習1	地域との連携(訓練)	三重大学安全・防災・危機管理室職員	
	演習2-3	行政機関による災害対応活動	三重県警察本部職員、津市消防本部職員、自衛隊三重地方協力本部職員	
第2回	演習4	企業の対応行動の計画	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター 企業防災アドバイザー 杉本宗久	
	演習5-6	企業の対応行動の計画(ワークショップ)	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター 企業防災アドバイザー 杉本宗久	
第1回	研究指導合同ゼミ・研究成果公開シンポジウム			各指導教員
第2回	研究指導合同ゼミ			
第3回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第4回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第5回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第6回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第7-8回	中間報告会			
第9回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第10回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第11回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第12回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第13回	研究指導ゼミ(グループ別指導)			
第14-15回	研究成果報告会			

は、「専門職防災研修」と合同開催。

※講師の都合により、講座日程や内容などが変更される場合があります。

三重大学キャンパスマップ

地域イノベーション研究開発拠点 A 棟
三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

地域イノベーション
研究開発拠点 D 棟 (5 階)

津波避難学内避難所

三翠ホール
小ホール

地域イノベーション
研究開発拠点 C 棟 (3 階)
地域イノベーションホール

工学部 7号館
第一合同棟 (5階)

工学部 4号館
建築棟
21番講義室 (2階)



お問い合わせ先

midimic
mie disaster mitigation center

三重県・三重大学
みえ防災・減災センター

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学 地域イノベーション研究開発拠点 A 棟 3 階
TEL : 059-231-9952
FAX : 059-231-9954
Mail : bosai_juku@dimio.mie-u.ac.jp

<https://www.midimic.jp>



アクセス

- 近鉄江戸橋 (三重大学前) 駅から徒歩で約 20 分
- 津駅から 三重交通路線バスで約 15 分
- 津駅から タクシーで約 10 分

発行日 令和 6 年 2 月